

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 1:21~23 「信仰に踏みとどまる」

[21-22a]「あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあったのですが、今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました」

和解は普通双方が歩み寄って一定の条件を満たし、敵対状態を解き、赦し、仲直りするものであるが神と人間の間はそうではない。罪の中に死んでいる人間の側でできることは全くなく、神が一方的に御子イエス・キリストによって和解を成し遂げてくださったのである。→ローマ5:8~10

「あなたがたも」とは直接的にはコロサイのクリスチャンたちを指すが、広い意味ではすべてのクリスチャンが対象になる。

神を離れ罪の中にある人間の状態。→ローマ1:28~31 しかるにあわれみ豊かな神は御子イエス・キリストをこの世に送ってくださり、その死によって私たちをご自分と和解させてくださったのである。御子イエス・キリストは聖霊によって処女マリヤの胎に宿られ、人間として肉のからだをもってこの世に来られた。これがクリスマスの出来事であった。そして福音を宣べ伝えられ、33年の地上の生涯の終わりに私たちの罪の身代わりとなって十字架にかけられ、死なれたが、三日の後に死より復活され私たちの罪の贖いを成し遂げてくださった。これが神の与えてくださった和解である。神の側で罪の中に死んでいる人間の側に歩み寄って来てくださったのである。

[22b]「それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした」

神が私たちと和解し、救ってくださった目的はこれである。別のことばで言えば、神の愛に値する者となるということであろう。クリスチャンはこの世の流れに流され以前のような汚れた生き方をするのではなく、聖い生き方をしなければならない。→ローマ12:1~2,13:12~14,6:19~21

このことは私たちが自分の力で成し遂げるのではなく、助け主である聖霊により頼んでいく時になされていくことである。日ごとにまた一瞬一瞬を聖霊により頼み、聖霊の力を求めつつ、神のみこころにかなった生き方をしようと願っていく時、私たちはそのような生き方ができるように変えられ成長していくのである。→ヘブル12:2,ピリピ1:6

[23]「ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです」

ここでは信仰に堅く踏みとどまるべきことが教えられている。そしてその場合大切なことは基礎、土台である。これがしっかりしていなければ上に建て上げること

はできない。この土台とはイエス・キリストの福音であり、それに基づいた信仰である。イエスはマタイの福音書7章24節以下で「わたしのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。……」と言われる。イエス・キリストのことば、福音を聞いてそれを実行する。それが土台の上に堅く立つことになる。そしてその福音の望みからはずれることなく堅く信仰にとどまるのである。信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させる。私たちはこの信仰によって、さまざまな困難を乗り越え、約束のものをいただくことができる。→ヘブル11:1,6

パウロは初代教会における福音のための立派な働き人であった。そして今日、私たちもまたこの尊い福音によって救われ、またそれを託されている者である。それゆえ、私たちもパウロの思いを私たちの思いとして、主のためにその働きの一端でも担わせていただきたいと願うのである。